

国立天文台・天文情報センター・アーカイブ室 中桐正夫

* 1995年～2000年頃の国立天文台記念物保存関係書類のアーカイブ

1995年頃(小平台長の頃)国立天文台で残すべき歴史的な貴重な観測装置、測定器械、資料などの調査が2次にわたって行われた事があり、その調査に基づいて幹事会議に諮られて、保存すべきもの、廃棄するものなどのリストが作られた。1995年3月8日の幹事会議、1995年5月15日の幹事会議、1997年11月4日の幹事会議などに計られた形跡がある。これらの関係書類は天文情報センター長の所に保管されていた。これらの書類を見るとその頃の人々が何を重要と思い、保存したかったかを伺うことができる。またその調査の結果がどのように生かされたか!大きな問題である。これらの書類をアーカイブしておくこともまた重要であろう。収蔵した書類の一覧は下記のとおりである。

- 50cmシュミット望遠鏡関係
- 65cmドーム保管品リスト
- AFUカメラ関係書類
- ブラッシャー写真機関係
- ペーカーナン・シュミットカメラ関係
- リーフラー時計関係
- 幹事会議資料19950308
- 国立天文台貴重記念物品2次調査書類
- 国立天文台展示・公開検討会議関係書類
- 佐藤文隆関係書類
- 水沢本館関係
- 太陽関係保存希望書類
- 中村・佐藤歴史的器物調査報告書(pdfで取り込み)
- 中村・佐藤歴史的器物調査20060220(ドキュメントスキャナーで取り込み)
- 尾久土小平宛ハガキ
- 聯合子午儀関係書類
- 鑑目関係書類資料
- 貴重書-伊藤・小平会談メモ
- 国指定史跡 林家墓地
- 国立天文台記念物保存調査リスト20050515幹事会議資料から
- 天文台の近代洋風建築
- 配布先名簿-08
- 文化財登録候補物件調査一覧-幹事会資料2

これらの書類を見ると、到底、保存を目的に調査がなされたとは思いがたい。幹事会議に計られ、ランク分けがなされたり、保存が決定されたりしているが、それが実行された形跡はないばかりか、保存が希望されたものが外部機関に積極的に出されたり、出そうとしたことさえあったことが当時の書類から分かる。

国立天文台が東京大学東京天文台であった頃は、大学の1部局であったから、講座当たりの建物の基準面積という厳しい制限のため、新しい研究のためには古い建物を処分する

必要もあり、既に研究に使われなくなったものを保管しておくスペースがなかったこともあるが、この調査が行われたのは既に大学から離れ、この講座当たりの基準面積という制限がなくなってからのことであった。

これらの幹事会議に諮られた資料を基に2002年4月に中村士氏がピックアップした、国立天文台記念物保存調査という表(図1)がある。

国立天文台記念物保存調査

重要度 No.	物品名	分類	担当部門	コメント(1996年1月23日 展示・公開懇談会資料より)
A 16	レプソルト子午儀	1	基本位置	1881年購入、ピアを含め保存したい ※旧海軍天文台(本郷)時代に購入。本郷→麻布→三鷹へ移設。通称大子午儀
A	バンベルグ子午儀	?	宇宙計量	機能・構造面において教育的価値がある
A 20	小子午儀(90ミリ、50ミリ)	1	宇宙計量	
A 23	リーフラー時計 3台	1	宇宙計量	日本標準時の保持・管理のために主時計として使用されていた ※昭和27年頃まで保持用標準時計として使用
A 24	水晶時計 2台	1	宇宙計量	1952年から1967年まで時刻基準時計として使用されてきた
A 26	クロノメータ	2	宇宙計量	昭和23年測地学委員会から移された高精度のクロノメータ
A 32	観測野帳類、諸外国報時送受信野帳類、写真乾板	2	宇宙計量	
A 50	H α 単色太陽写真儀(通称モノクロ)	2	太陽・コロナ	デザインが美しい、保存してはどうか ※1956年
A 6	65センチ赤道儀写真撮影装置(同乾板ホルダも)	2	理論	望遠鏡購入時のもの、設計面のノウハウがおもしろい
A 8	65センチ赤道儀(光電)測光観測装置	2	理論	1950年に完成、補正レンズ系がおもしろい
A 48	分光太陽写真儀(シーロスタット、他に機具類も)	1	太陽・コロナ	※登録文化財指定済み(アインシュタイン塔)
A 1	OKI計算機コントロールパネル	5	理論	天文台最初の電子計算機
B 21	聯合子午儀室および1号室のピア	1	宇宙計量	※1921年
B 28	(PZT)乾板測定器	1	宇宙計量	日本で作られた投影式乾板測定器の第1号 ※PZT=写真天頂筒
B 7	65センチ赤道儀掩蔽観測装置	2	理論	1960年代掩蔽観測に使用 ※1963年?
B 17	ガリ版刷り層(昭和19、20など)	2	天体力学	天文台の仕事の歴史として保存したい
B 18	ハーマン自動式I型電気計算機	2	天体力学	
B 33	国際報時所関連書類、写真など	2	宇宙計量	
B 34	国際報時所使用、当時最先端電波送受信器など	2	宇宙計量	
B 37	人工衛星レーザ発信器ヘッド部分	2	旧天体搜索	
B 43	ナルミ マイクロロメータ	2	中綱	
	AFUカメラ	?	堂平観測所	人工衛星カメラとしてユニークな存在(都幾川村からもらい受ける?)
	ブラッシャー天体写真機一式 ペーカナンカメラ			国立科学博物館へ 姫路科学館へ

●重要度について

A: かなり重要 B: 保存・展示

●分類について

1: 天文台として保存を心がける施設、装置、建物など

a. 世界に先駆け、成果をあげた装置

b. 東京天文台の初めての装置(記念碑的な価値)

c. 今では使われなくなっているが、歴史的、機能・構造的に興味のあるもの(教育的価値)

2: 文庫館収納品のものとして保存するもの

3: 本誌、1に属するものの中に、天文台では保存が難しいもの、或いは外部の公共施設での公開が適当と考えられるもの

4: プレートや観測データなどで保存したいもの。活用でき、且つ活用する意思のはっきりしているもの

5: 必ずしも天文台で保存しておく必要はないと考えられるもの

【1995年5月15日幹事会議資料にもとづき、中村がピックアップ(2002年4月)】

2007/11/

図1 1995年5月15日幹事会議資料に基づいて作成された表

この表を見ると、Aランク、Bランクとランク分けされ、Aランクの第1位にあげられているものは、なんとレプソルト子午儀ではないか。Aランク、1位のものさえきちんとした保存の対策は採られず、2007年にいたって筆者がレプソルト子午儀室のゴミの山のなかに発見するまで、その存在が忘れ去られていた。この表に24点が記載されている。

この24点の内、2007年12月立ち上げの子午儀資料館に収蔵、保管、展示されているものは、

- 1) レプソルト子午儀
- 2) バンベルヒ子午儀(90mm2点、50mm)
- 3) リーフラー時計2点

現在整備を進めている国立天文台プレミューリアムに収蔵、展示されているもの

- 1) 70m バンベルヒ子午儀
- 2) クロノメーター3個
- 3) H α 単色太陽写真儀(通称モノクロ)

- 4) 65cm 赤道儀写真撮影装置
- 5) 65cm 赤道儀掩蔽観測装置
- 6) 太陽分光写真儀の一部 (反射グレーティング、カメラレンズ)
- 7) AFU カメラ

の7点である。24点の内10点は筆者の手によってプレミアムという位置づけの場所に収蔵され、今後、紛失する事はないであろうが、このリストの中でも散逸した大物は

- 1) 65cm 赤道儀 (光電) 測光観測装置
- 2) 人工衛星レーザー発信機ヘッド部分
- 3) ブラッシャー天体写真儀 1 式
- 4) ベーカーナンカメラ

これらの内、ブラッシャー天体写真儀は国立科学博物館へ譲渡となっているが、その所は確かではない。ベーカーナンカメラは姫路科学館へ譲渡された経緯を示す小平台長の書簡が残っている。

そして、また驚いたことには、堂平観測所にあったソ連製人工衛星追跡カメラ AFU カメラについては、天文台としては始末に困るから、当時担当者であり、既に定年退職していた富田さんに引き取れという台長の書簡が残されており、堂平観測所の事務担当者から台長宛に、富田さんが引き取ったという報告書まであった。

このソ連製 AFU カメラについては、筆者が追跡調査をした結果、焼津の元法月鉄工 (現法月技研) にあることが分かり、現在の社長にお願いし、譲渡していただき、プレミアムに復元、展示にこぎつけた。また、フランス製モノクロもまた、ほぼ同様な事態になっており、三鷹光器の駐車場で雨ざらしになっている所を発見し、現在の社長に譲渡をお願いし、これもプレミアムに引き取り、展示している。

また、ナルミのマイクロフォトメーターは三鷹のものは既に処分されてしまい、2008 年 に至って水沢 VERA 観測所に残っていたものを譲渡していただき、プレミアムに収蔵し展示した。このマイクロフォトメーターはスペクトル解析に必需品であった。